



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一八四号）

立秋 りゅうしゅう

八月七日

スポンジ

鳥羽志摩でスポンジといえば、なにを指すでしょうか。
海に潜って、アワビやサザエを採る海女たちが着用している黒いウエットスーツのことです。

三重県の鳥羽市、志摩市には全国の半分近くにあたる約千人の海女が操業しています。すでに万葉集に詠まれた志摩半島の海女ですが、明治三十年頃から白い木綿の磯着を着て、潜るようになりました。そして昭和三十七年、フランス製から改良を重ねた国産の合成ゴム製のウエットスーツが完成すると、鳥羽志摩の海女たちも使い始めます。薄いペラペラの生地の木綿に比べて、ゴム製のスーツは厚みがあり、身体を保護してくれる上、保温性に優れていることから、冷たい海に潜る海女にとって重宝したことでしょう。瞬く間に普及していききました。スポンジと呼ぶのは、スポンジゴム製だからです。

このウエットスーツは毎年春先に身体を採寸してぴったりとしたものを新調すると聞きました。ニミリ、三ミリと生地の厚さはそれぞれの好みで決めることは知っていましたが、岩で生地を切るなど傷みがでくするため毎年新調するとは驚きでした。それほど海女漁が厳しい作業であることがうかがえます。

しかも、身体にぴったりのウエットスーツが、夏には身体に合わず、「がばがば」になり、スーツ内に潮水が入ってくるため、潜りにくくなるのだそうです。なぜなら海女漁で著しく体力を使うため、人によっては十キロ近く痩せてしまうからといえます。夏の海女は少し痩せているのです。

高価で取引されるアワビの漁期は九月十四日まで。今が海女たちの稼ぎ時でもあるのです。

文 千種清美

